

- 1 手榴弾配布の件
- 2 3月25日夜の件 (宮里盛秀の発言と「集団自決」命令)
- 3 「集団自決」の原因
- 4 「母の遺したもの」での記述 (梅澤が当時のことを忘れていたこと)
- 5 宮城初枝の手紙
- 6 - 1 宮村幸延のこと
- 6 - 2 宮村幸延の証文
- 7 軍命のデッチあげの張本人
- 8 責任について
- 9 「戦陣訓」の教育について
- 10 日本軍による「玉砕」命令について
- 11 忠魂碑前集合と梅澤隊
- 12 「沖縄タイムス」と梅澤

1 手榴弾配布の件 (自己矛盾)

原「昭和20年の3月23日から空爆が始まり手榴弾を住民に配ることを許可したのか」

梅澤「していない」

被「軍の装備について。軍にとって手榴弾は重要な武器か」

梅澤「はい」

2 「3月25日夜」の件 (宮里盛秀の発言と「集団自決」命令) (捏造)

原「3月25日夜、第1戦隊の本部に来た村の幹部は誰だったか」

梅澤「村の助役と収入役、小学校の校長、役場職員、それに女子青年団長の5人だった」

原「5人はどんな話をしにきたのか」

梅澤「『米軍が上陸してきたら、米兵の残虐性をたいへん心配している。サイパンの話も聞いている。老幼婦女子は死んでくれ、戦える者は軍に協力してくれ、といわれている』と  
言っていた」

原「誰から言われているという話だったのか」

梅澤「役所の上司、那覇あたりの行政から (\*1)。それで、弾を破裂させ殺してくれ、そ  
うでなければ手榴弾をくれ、ということだった」

原「どう答えたか」

梅澤「『とんでもないことを言うんじゃない。死ぬことはない。われわれは後方にさがって  
陸戦をするから、後方に下がっていればいい』と話した」

原「弾薬は渡したのか」

梅澤「拒絶した」

原「5人は素直に帰ったか」

梅澤「執拗に粘った」

原「5人はどれくらいの時間、いたのか」

梅澤「30分ぐらい」

原「お帰りくださいと言ったのか」

梅澤「そんな生やさしいことはいわず、『帰れ!』と言った。『死んではいけない』と言って追い返した」

### 3 「集団自決」の原因(捏造)

原「なぜ集団自決が起きたと思うか」

梅澤「米軍が上陸してきてサイパンのこともあるし大変なことになると思ったのだろう」

### 4 「母の遺したもの」の記述(梅澤が当時のことを忘れていたこと)(否定)

原「団長の娘の手記には、梅澤さんは昭和20年3月25日夜に5人が訪ねてきたことを忘れていた、と書かれているが」

梅澤「そんなことはない。脳裏にしっかり入っている。大事なことを忘れるわけがない」

### 5 宮城初枝の手紙(捏造 - 新証言)

原「その後の初枝さんからの手紙には『いつも梅澤さんに済まない気持ちです。お許しくださいませ』とあるが、これはどういう意味か」

梅澤「厚生省の役人が役場に来て『軍に死ね、と命令されたと言え』『村を助けるためにそう言えないのなら、村から出ていけ』といわれたそう。それで申し訳ないと>(\*2)

### 6 - 1 宮村幸延のこと(捏造)

原「会って、あなたは何と言ったか」

梅澤「村長が『あなたに聞いたら、みな分かる』と言った、と伝えた」

原「そうしたら、何と返答したか」

梅澤「『村長が許可したのなら話しましょう』という答えだった」

原「どんな話をしたのか」

梅澤「『厚生労働省に(援護の)申請をしたら、法律がない、と2回断られた。3回目のときに、軍の命令ということで申請したら許可されるかもしれないといわれ、村に帰って申請した』と話していた」

### 6 - 2 宮村幸延の証文(否定・捏造)

原「(宮村幸延が書いたという文書を見せ)この証文は誰が書いたのか」

梅澤「わりとすんなりと書いた。文章をどういうふうにしたらいいのかと」

原「これは、どういうものか」

梅澤「私が下書きしたものかわかりませんな」

原「その時、幸延氏は泥酔していたか」

梅澤「泥酔していなかった」

被「助役の弟の証言に関するのだが、この証言はあなたが『家族に見せるため』と書いてもらったのではないか」

梅澤「違う」

被「あなたは『家族に見せるため』ということではなかったのか」

梅澤「それだけではない」

被「3月28日、(宮里)芳和さんに電話かけてもらって会ったんでしょう」

梅澤「記憶にない」

7 「軍命のデッチあげ」の理由(捏造 - 新証言?)

原「軍の命令だということに対し、島民の反対はなかったのか」

梅澤「当時の部隊は非常に島民と親密だったので、(村の)長老は『気の毒だ』と反対した」

原「その反対を押し切ったのは誰か」

梅澤「復員兵が『そんなこと言っただって大変なことになっているんだ』といって、押し切った」

8 責任について(否定・逃げ)

原「多くの島民が亡くなったことについて、どう思うか」

梅澤「...『死んではならない』と言った。責任はありません」

被「(梅澤の手紙を示し)あなたが昭和55年に出した宮城晴美さんへの手紙で『集団自決は状況のいかんにかかわらず、軍の影響下にあり、まったく遺憾である』と書いているが、集団自決は軍の責任なのか」

梅澤「私は『軍は関係ない』とは言っていない」

被「手紙を出した当時、軍の責任を認めているということか」

梅澤「全然認めていないわけではない」

9 「戦陣訓」・「鬼畜米英」思想の教育について(否定・捏造)

被「戦陣訓として『生きて虜囚の辱めを受けず』という言葉があるが、こういう教えが座間味の島民に浸透していたことは知っていたか」

梅澤「島の長が島民に教育していたと思う」

被「鬼畜である米英に捕まると女は強姦、男は八つ裂きにされるので玉砕すべきだ、ということも浸透していたと知っていたか」

梅澤「そういうことは、新聞や雑誌を通じて報道されみな知っていた」

10 日本軍による「玉砕」命令について(否定)

被「宮城初枝さんが木崎軍曹から『万一のときは日本女性として立派な死に方を』と言われて手榴弾を渡されたことは知っているか」

梅澤「はい。初枝から聞いた」

被「(座間味村史を示し)宮里育江さんが3月25日に『連れて行くわけにはいかない。民間人だし足手まといになる。万一の時は自決を』と言われて手榴弾を渡された、と書いているが、このことは知っているか」

梅澤「知らない人だ」

被「こんなことがあった、というのは知っているか」

梅澤「おそらくそんなことはなかったと思う」

被「『明日は米軍の上陸だから民間人を生かしておくわけにはいかない。万が一のときはこれを使って死になさい』と軍人から手榴弾を渡されたという宮平初子さんの手記は知っているか」

梅澤「言うはずがないと思う」

被「宮川スミ子さんは『昭和 20 年 3 月 25 日の夜、忠魂碑の前で日本兵に、米軍に捕まる前にこれで死になさい、と言われて手榴弾を渡された』と証言しているが」

梅澤「そういうことは全然知りませんし、ありえないと思う」

被「手榴弾は重要な武器だから梅沢さんの許可なく島民に渡ることはありえないのでは」

梅澤「ありえない」

被「日本兵が『米軍に捕まるよりも、舌をかんででも前に潔く死になさい』などと島民に言っていたのを知っているか」

梅澤「知らない」

被「部下がそういうことを言っていたのを知らないか」

梅澤「知らない」

#### 11 忠魂碑前集合と梅澤隊（否定・捏造）

原「軍は何かしたのか」

梅澤「人を集めておいて、私のところに弾をくれと言いに来たのは事実らしい」

原「忠魂碑の前に島民がいて、軍もいるというのはあり得るか」

梅澤「ありえない」

#### 12 「沖縄タイムス」と梅澤（認知）

被「昭和 63 年 12 月 22 日に沖縄タイムス社の常務と話をした際に『もうタイムスとの間でわだかまりはない』と言ったか」

梅澤「言った」

被「覚書を交わそうとしたとき、『そんなもん心配せんでもいい。私は侍だから判をつかんでもいい』と言ったか」

梅澤「言った」